

研究課題：がん医療の均てん化に資する緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究

課題番号：H19 ーがん臨床ー一般ー002

研究代表者：国立大学法人筑波大学大学院人間総合科学研究科講師 木澤義之

## 1. 本年度の研究成果

### 1) すべてのがん診療に携わる医師に対する緩和医療の基本的な教育プログラム

(PEACE) および教育用の教材を作成した。：作成した教材は、本研究班のホームページ <http://www.kanwaedu.umin.ac.jp> などに掲載し公開した。本プログラムはがん診療拠点病院を中心に展開されるすべてのがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会のプログラム及びその教材、指導者マニュアル、開催マニュアルがセットになったものである。また並行して日本緩和医療学会等と協力して9月、10月に計2回の指導者養成研修会（緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会および精神腫瘍学の基本教育に関する指導医研修会）をそれぞれ2泊3日、1泊2日の合宿形式で船橋、神戸において開催し、計260名あまりの研修指導者が養成された。今年度中に日本緩和医療学会、国立がんセンターと協力し、計3回、約280名を対象に指導者研修会を開催予定であり、全国で開催される同研修会の実施に寄与した。

2) 緩和ケアチームに対する教育プログラムの開発と実施：緩和ケアチームの質の向上を目的に、昨年に引き続いて国立がんセンターと協力して、がん診療連携拠点病院緩和ケアチーム対象の研修会を年4回、約60チームを対象に実施した。また、研修会の評価のため緩和ケアチームの活動の評価尺度の開発を進めている。

3) 緩和ケアチームの基準の明確化に関する研究：基準を作成し、本年度初めに完成、現在論文を投稿中である。

4) 看護師に対する啓発普及プログラム ELNEC (End-of-Life Nursing Education Consortium) 日本語版の開発：緩和ケアを専門としない看護師に緩和ケアに関する能力を教育するために、米国で開発された終末期看護における看護師に対する啓発普及プログラムである ELNEC (End-of-Life Nursing Education Consortium) 日本語版を開発し、計2回のパイロットスタディを行い、プログラムが確定した。現在 ELNEC-J の教育効果を測定する尺度を開発中である。

5) 調剤薬局における緩和ケアの実態調査、病院に勤務する心理士に対する緩和ケアの実態調査をそれぞれ計画し、研究を実施中である。

## 2. 前年までの研究成果

1) 緩和ケアチームに対する教育プログラムの開発と実施：緩和ケアチームの質の向上を目的に、がん診療連携拠点病院緩和ケアチーム対象の研修会のプログラムを開発し、計4回、60チームを対象に研修会を実施した。また、研修会の評価のため緩和ケアチームの活動の評価尺度の開発を開始した。2) 緩和ケアチームの基準の明確化に関する研究：わが国の緩和ケアチームの活動指針を示すために、デルファイ変法およびパネルミーティングを行って、緩和ケアコンサルテーションチームの基準を作成した。3) 看護師に対する啓発普及プログラム ELNEC 日本語版の開発：緩和ケアを専門としない看護師に緩和ケアに関する能力を教育するために、前述した ELNEC の日本語版の

開発とその教育効果を測定する尺度開発に着手した。4)緩和ケアチーム診療に必要な各職種的能力と学習目標の作成:緩和ケアチームの診療に必要とされる各職種の学習到達目標を作成した。5)緩和ケアにおける心理士および理学/作業療法士の役割に関するグループ・インタビュー:緩和ケアチームに関わるコメディカルに求められる能力および学習目標を明らかにするために、実際に緩和ケアチームで活動する医師・看護師を対象としたグループ・インタビュー研究を実施し、質的分析を行い心理士に求められる緩和ケアチームでの役割を明らかにした。

### 3. 研究成果の意義及び今後の発展性

今後の課題としては、今までに開発された教育プログラムを実施、実践することを関連諸機関とともに行うこと、また、それぞれの教育プログラムや緩和ケアチームの基準等をホームページ等を通じて公表することを通して緩和ケアの質の向上に寄与することがあげられる。

本研究の実施により、すべてのがん診療に携わる医師や看護師を対象とした緩和医療の教育プログラムが開発され、指導者研修会が行われることにより、緩和医療の基本的な知識の啓発普及に寄与することが期待される。また、緩和ケアチームの基準の作成、緩和ケアチームに対する教育プログラムの開発と実践、緩和ケアチームを構成する医療従事者の育成方法の検討によりがん診療拠点病院を中心とした緩和ケアチームの質の向上が期待できる。このような各種教育プログラムが総合的に実施されることにより、多くの患者に早期から、効率的に緩和医療が実践されることが期待できる。

### 4. 倫理面への配慮

本研究は、患者家族を対象としたものではなく、医療従事者を対象とした教育プログラムの作成およびその有効性の検証に関する研究である。調査は氏名や施設名が特定できぬようコード化して行い、解析する。また、得られた結果は統計学的処理に使用し個人のプライバシーは守られる旨を文書にて説明する。

### 5. 発表論文

- (1) Morita T, Fujimoto K, Namba M, Kiyohara E, Takeda S, Yamazaki R, Taguchi K. Screening for discomfort as the fifth vital sign using an electronic medical recording system: a feasibility study. *J Pain Symptom Manage* 35(4):430-436,2008.
- (2) 森田達也、木澤義之、戸谷美紀編:緩和ケアチームの立ち上げ方・進め方. 東京: 青海社, 2008.
- (3) 木澤義之、森田達也 (編) 社団法人日本医師会 (監) .がん緩和ケアガイドブック 2008年版. 株式会社青海社. 東京. 2008.3.
- (4) 森田達也、藤本亘史、難波美貴、福本直子、伊藤智子、葛西英二、高田知孝、井村千鶴. 緩和ケアチームの活動－聖隷三方原病院の場合－. *日本臨床* 65(1):128-137,2007.
- (5) 岡村 仁: がんチーム医療とリハビリテーション. *腫瘍内科* 2: 343-347, 2008

- (6) 三木恵美, 清水 一, 岡村 仁: 末期がん患者に対する作業療法の効果～作業療法士の語りの質的内容分析～. 作業療法 (印刷中)
- (7) 岩満優美, 和田芽衣, 平山賀美 緩和医療におけるコミュニケーションー臨床心理士の立場からー緩和医療学 9(1):8-13 2007.1
- (8) 笹原朋代. 緩和ケアチーム活動上のバリア・アセスメントツール. 緩和ケア. 2008; 18:118-120.
- (9) 竹之内沙弥香 : 【終末期医療における倫理的ジレンマと解決案】 ELNEC(End-of-Life Nursing Education Consortium)を用いた看護倫理教育: 緩和ケア 18 巻 4 号 ,312-315,2008.

## 6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属研究機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属機関における職名
木澤 義之	研究の総括	筑波大学医学専門学群・平成3年卒・学位なし・緩和医療学、総合診療	筑波大学大学院人間総合科学研究科	講師
森田 達也	教育評価の尺度開	京都大学医学部・平成4年卒・学位なし・緩和医療学	聖隷三方原病院、緩和支持診療科	部長
岡村 仁	理学療法士等の育成に関する研究	広島大学大学院・平成3年卒・医学博士、精神医学	広島大学大学院保健学研究科	教授
大滝 純司	緩和医療の教育方法に関する研究	筑波大学医学専門学群・昭和58年卒・医学博士、総合診療医学	東京医科大学	教授
橋爪 隆弘	緩和ケアチームの育成に関する研究	秋田大学医学部大学院・平成2年卒・医学博士・外科学	秋田市立秋田総合病院	医長
林 昇甫	緩和ケアチームの育成に関する研究	兵庫医科大学・平成6年卒・学位なし・外科学・緩和医療学	市立豊中病院	医員
高橋美賀子	看護師の育成に関する研究	聖路加看護大学大学院・平成11年卒・看護学修士、がん看護学	聖路加国際病院がん看護、緩和ケア	専門看護師
笹原 朋代	緩和ケアチームの基準に関する研究	東京大学大学院医学系研究科平成19年卒・緩和ケア看護学	筑波大学大学院人間総合科学研究科	講師

岩満 優美	緩和医療に携わる臨床心理士の育成に関する研究	同志社大学文学研究科博士後期過程単位取得退学・平成10年卒・博士（心理学）	北里大学大学院医療系研究科 ・医療心理学	准教授
塩川 満	薬剤師の育成に関する研究	東邦大学薬学部薬学科平成元年卒	聖路加国際病院薬剤部	薬剤師
伊勢 雄也	薬剤師の育成に関する研究	星薬科大学大学院博士課程 ・平成9年卒・薬学博士	日本医科大学付属病院薬剤部	主任
竹之内沙弥香	看護師の育成とその評価に関する研究	京都大学大学院医学研究科 平成18年卒・専門職学位・医療倫理学、がん看護学	京都大学大学院医学研究科医学専攻 博士課程	在学中